

## 学校関係者評価報告書

愛媛県立大洲高等学校肱川分校

学校番号 ( 30 )

| 評価実施日 |        | 令和5年2月20日(月)            |  |     |
|-------|--------|-------------------------|--|-----|
| 委員    | 氏名     | 所 属 等                   |  | 備 考 |
|       | 安川 哲生  | 地域代表 大洲高等学校肱川分校同窓会長     |  |     |
|       | 兵頭 勇太  | 地域代表 大洲市肱川郵便局長          |  |     |
|       | 泉 小夜子  | 肱川分校 P T A 会長           |  |     |
|       | 菊池 正敏  | 肱川分校 分校長                |  |     |
|       | 富田 晶子  | 肱川分校 総務課長               |  |     |
|       | 藤原 治永  | 肱川分校 教務課長               |  |     |
|       | 松岡 由利子 | 肱川分校 進路課長・研修課長・人権同和教育課長 |  |     |
|       | 竹中 一生  | 肱川分校 生徒課長・特活課長・保健厚生課長   |  |     |

| 評価・提言等  | 提言等に対する改善方策等   |
|---|--|
| <p>1 今年度の最終評価について</p> <p>(1) 学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先生方の熱心な指導のおかげで良い結果が出ている。</li> <li>夏休みなど長期休み明けに欠席者が増えているようであるが、少人数の学校であることを生かして、久しぶりに会いたくなるような兄弟や家族のように受け入れる雰囲気づくりをしたらよいのではないか。</li> <li>生徒はみんないいものを持っているはずである。それを見つけてあげてほしい。</li> </ul> <p>(2) 生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後も生徒とのコミュニケーションを大切にしていただき、生徒と良い関係を築いてほしい。</li> <li>個人面接を多く取り入れているようであるが、生徒を理解したり、保護者との関係を構築するために、とても有効な方法である。</li> </ul> <p>(3) 進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4年制大学への進学者が出ている。今後も大学に進学する生徒が続くよう頑張ってもらいたい。</li> </ul> <p>(4) 特別活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年連続の全国大会出場は素晴らしい。今後も練習等頑張ってもらいたい。</li> </ul> <p>(5) 保護者との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校ホームページを通じて日頃の学校の活動を広く情報提供できている。</li> <li>学校行事等に保護者が積極的に参加し、大変よい連携が取れている。</li> </ul> <p>2 学校評価アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>過去のアンケートでは、「分からない」と回答した保護者がいたが、今回の調査では「分からない」の回答がほぼ「0」となっており、保護者との関わりを工夫した結果が表れていると感じた。</li> <li>生徒も保護者も学校に対する評価がかなり高くなっている。</li> <li>生徒自身の自己評価はまだまだ消極的な回答である。</li> </ul> <p>3 学校経営への提言</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学時代には学校に行けなかった生徒が、肱川分校へ入学して大きく変わっている。検定などの資格取得にも成果が出ており大変素晴らしい。生徒同士が仲が良く雰囲気が良い。家の手伝いも良くなるようになった。アルバイト等様々な経験を通してとても成長している。これからもよろしく願いたい。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>今後も一人ひとりを見つめた、きめ細かい教育を継続していきたい。</li> <li>少人数ならではの、アットホームな学校の雰囲気づくりと生徒に寄り添う教育を継続し、長期休み明けの欠席者が少しでも減るよう指導していきたい。</li> <li>生徒一人ひとりの長所を見て、さまざまな体験活動を通して自己有用感を高める指導に心がけたい。</li> <li>生徒とのコミュニケーションを大切に、生徒の変化に早期に気づく観察力を磨き、普段からの声掛けや情報共有を図りながら、教職員全員で生徒を成長させる組織を築いていきたい。</li> <li>生徒との面接や関わり合いが、大規模校と比較すると大変多く、生徒を理解するうえで大変役に立っている。面接以外でも普段からの声掛けを意識し、生徒・保護者との人間関係構築に努めたい。</li> <li>先輩が4年制大学へ進学したことで、後輩たちへの良い刺激となっている。経済的な面も含め、親身になって支援していく体制を継続して構築していきたい。</li> <li>部活動を通して、技術だけでなく集団でのコミュニケーションの在り方や礼儀などを習得している。全国大会への出場は、生徒の自信になっており、今後とも継続して指導していきたい。</li> <li>日々の学校行事や学習活動など、生き生きとした生徒の姿を保護者に知っていただけるよう、今後も継続して情報提供をしていきたい。</li> <li>コロナ禍の中にあっても、保護者との関わり合いを大切にしている。学校行事には積極的に参加をいただき、できる限りの交流を深めている。今後とも保護者と学校が良い関係を維持し、連携を取り合いながら生徒のために何ができるかを模索したい。</li> <li>保護者が学校行事に積極的に参加していただくことで、生徒たちの表情も和らいでいるのが分かる。</li> <li>学校の様子を知っていただくことで、学校と家庭に信頼関係が生まれ、安心して学校に送り出してもらえるように、今後とも保護者との関わりを大切にできる学校運営に努めたい。</li> <li>進路に対する意識の低い生徒や基本的な生活習慣が確立できていない生徒がおり、低学年から時間をかけて意識改革に努めていきたい。</li> <li>中学校まで不登校だった生徒が、肱川分校に入学して成長していく姿、保護者が喜んで見られる姿が見られることが、肱川分校教職員の活力源になっている。本校独自のゆっくりとしたリズムで生徒としっかり向き合う教育を実践していく。一人でも多くの生徒が、本来の元気な姿に戻り、目標に向かって成長できるよう、今後も支援を継続していきたい。</li> </ul> |